

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	147260314	事業の開始年月日	2005, 12, 1
	9	指定年月日	2006, 4, 1
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語 さがみ		
所在地	(〒252-0327) 神奈川県相模原市南区磯部156-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成26年10月2日	評価結果 市町村受理日	平成27年9月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

相模川のそばに建ち、自然豊かな環境にあり、日々の散歩では、四季の移り変わりを感じながら歩いていただいております。ホームの裏には、家庭菜園を作り、草取りをしていただいたり、収穫を楽しんでいただいております。さがみの大風やお月見の行事など、古くからの教訓に参加しながら、安全で穏やかな毎日を過ごしていただけますよう、お手伝いをさせていただきます。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年10月22日	評価機関 評価決定日	平成26年12月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、JR相模線下溝駅より徒歩10分ほどの自然環境に恵まれた住宅地にある。西は相模川、東は府中通り大山道の中央に位置している。建物は洒落た外観の木造2階建てのグループホームである。居間・食堂とキッチンが中央にあり、職員が見守りやすいように配置され、陽当たりが良く清潔である。</p> <p>【利用者本位の介護サービスの実践】 このホームには「五つの思い」の運営理念がある。「一人ひとりのリズムを大切に」「真心で寄り添う」ことなどを大切に、介護経験の豊富な職員によるチームケアが行われている。また、散歩、家事の手伝いなどを通じて、残存能力の維持向上を図っている。</p> <p>【医療機関との連携と災害対策】 協力医療機関との医療連携により24時間オンコール体制があり、定期的な訪問診療を受け、訪問看護師による健康管理が行われている。防災訓練を年に2回実施し、非常用食料・飲料水を3日分備蓄している。</p> <p>【地域交流と利用者の暮らしぶり】 自治会に加入しお祭りに参加したり、敬老会からお祝いを頂いている。地域の「月見の風習」で訪ねてくる子供達にお菓子を配ったり、近隣小学生のフラダンスグループが訪れ、踊りを披露してくれる。カラオケ同好会やギター演奏などのボランティアの来訪がある。行事計画に沿って花見、大風揚げ見物、ひまわり園見学、買い物などの外出を楽しんでいる。50坪ほどの家庭菜園の収穫物は芋煮会などで食卓を賑わしている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語 さがみ
ユニット名	青空

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	五つの4文字熟語で介護に向かう姿勢を表している。地域密着を示す理念は無いが、地域の方との連携は、大切に思っています。	事業所の開設時に「五つの思い」の運営理念を作成し、玄関、事務室に掲示している。職員の入職時に施設長が説明し意識付けしている。職員は理念を理解し「一人ひとりのリズムを大切に」「真心で寄り添う」ことなどを日々の介護に反映させている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事（大凧上げ、盆踊り、消防訓練、お月見等）に参加し、なじみの関係を作るよう心掛けている。日々の散歩も知っていただく機会と思っています。	上磯部中自治会に加入し、地域の草刈りや祭りに参加している。敬老会からは敬老の日にお祝いを頂いている。地域の「月見の風習」で訪ねてくる子供達にお菓子を配ったり、近隣小学生のフラダンスグループが訪れ、踊りを披露してくれる。カラオケ同好会やギター演奏などのボランティアが来訪している。地域の介護相談にも応じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の地域ケア会議に参加させて頂き、多くの方に、ホームを知って頂くようお話し、ホームとして地域のお手伝い出来るかを考えて行きたいと思っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入居者のご様子を報告し、皆様の生活を知っていただく良い機会と考えます。ボランティアの協力をお願いします。こともあります。	2カ月に1回開催している。出席者は自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、事業所である。会議には議題を用意し活性化に努めている。運営報告を行い、防災訓練、大雪対策などの助言をもらい運営に活かしている。外部評価結果を報告し玄関に議事録、外部評価報告書を開示している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ、お電話等で常に、連絡をさせていただいています。	市の介護保険課とは外部評価の提出の際に意見交換している。地域包括支援センターが本年、施設見学ツアーを企画し、事業所に市民を案内してくれた。同センター主催の地域ケア会議にも出席している。防災訓練には消防署から職員を派遣してもらい指導を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の施錠はせず、スタッフには、玄関の開く音に注意することと、常に所在確認を行うようにする。	日中は玄関を開放し、職員の見守りで安全を確認している。階段は転倒が無いようにセンサーを設置し察知している。2階ユニット玄関には鈴をつけている。外出を察知した時は、職員が付き添って近所を散歩して気分を落ち着かせている。不意の外出があった時は、消防署（消防指令センター緊急対策課）へ電話して「ひばり放送」で全市に放送してもらう。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止マニュアルをスタッフルームに用意し、読んでもらうようスタッフ会で話している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、ありませんが、今後必要に応じて行っていきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居の契約の際は、契約書を事前にお読みいただき、契約時には、ご質問にお答えして、不安の無いようにご入居いただけるよう対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画を送付する際、ご意見をいただけるよう、手紙をつけ、いただいたご意見はスタッフ会で話し合っており、ご意見に沿うようにしている。	家族の来訪が多く、来訪時や電話で意見・要望を聞いている。また、家族会を年に1回開催し、意見を述べる機会をつくっている。外部評価の「利用者家族アンケート結果」も、ユニット毎のスタッフ会で話し合っており運営に反映させている。今年の8月から、毎月の請求書の郵送時に「花物語通信」を同封して、個々の利用者の生活の様子やホームの状況を知らせている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社からのアンケート（キャリアシート）により、意見・希望等を伝えられる機会を設けている。又、面談の機会を作り、意見等話しやすい環境作りを心掛けている。	施設長が職員の契約更新時に本人の希望や目標について話し合っている。日常的にも職員の意見を聞いてサービスに反映させている。月に1回スタッフ会を開催して意見交換が行われている。外部評価の自己評価作成の際にも、施設長が運営について職員の意見を聞いている。法人の資格取得支援制度があり、各種の資格取得の希望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の資格支援制度を利用し、資格取得を勧めている。又、研修への積極的参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内の他施設見学・情報交換会を通じて、ケアの見直しや振り返りを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、多くの情報をご家族よりいただき、入居後の生活に活かせるよう、スタッフに把握してもらおう。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	資格や不安については、丁寧な対応を心掛けている。多くのご面会をお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者・ご家族の希望を基にして、その型が必要としていることは何かを考え、計画を立てるよう心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はしていただくを基本に、家事への参加をお願いしている。人生の先輩であるご入居者に学ぶ姿勢を大切にと考える。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とともに支える姿勢が大事と考える。お話をしにくい内容のことでも、ご家族には知って頂きたいことは、ご家族のお気持ちを考えながら、伝えることは必要と思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・知人が面会に気軽に訪れていただけるような雰囲気作りに努め、いらしたときは一緒にお茶を楽しんでいただけるよう対応している。	利用者の重度化が進み、馴染みの場所や買い物に出かける機会が減っているが、家族や知り合いが来訪した時は、お茶を出して居室で談笑してもらっている。家族や友人からの手紙を読み聞かせ、返書の投函支援を行っている。里帰りや墓参りを通じて、知人と交流する機会がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に、入居者の動きには気を配り、1階と2階の交流も含め、会話を楽しんでいただけるよう支援する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、ご家族が遊びにいらしてくださったことがあり、これからもそのような関係を大切にしていきたいと考える。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者のご希望には、出来るだけ対応していくことが必要と考える。囲碁の相手を希望しておられるご入居者には、ボランティアセンターにお願いし、週一回いらしていただいている。	利用開始時のアセスメントで本人・家族の思いや意向を把握している。その後も要介護認定更新ごとにアセスメントを実施し、介護計画に反映している。重度化した利用者の場合は、家族から聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時に、ご本人ご家族より多くの情報をいただき、それによりアセスメントを作成し、入居後の生活に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を記録に残し、日勤から夜勤へ、夜勤から日勤へご様子を申し送ることにより、状態を把握する。又、必要とする介助が違う為、日々の状態の変化を共有する。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のスタッフ会でカンファレンスを行い、話し合いの内容は、介護計画の見直しに参考に行っている。4ヶ月に1回及び状態に変化のあった場合に見直しをおこなう。	初回アセスメント、中間アセスメントを行っている。介護計画に沿ったサービス提供の記録をとり、カンファレンスを毎月行って評価表を作成している。カンファレンスで職員の意見を聞いている。見直しは6ヵ月ごと、急変があればその都度行っている。必要に応じて医師や看護師から医療情報を取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録には、食事・排泄・水分摂取量・服薬などの基本的情報のほか、日々の変化についても記録に残し、申し送りでの共有をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	相談のあった場合には、地域包括センター・居宅へつなげる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加することにより、昔を思い出し、楽しいひと時を過ごしていただく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護・往診・緊急時の受け入れを、ひとつの医療機関で受けていただいているが、数名についてはご家族の希望により、入居前のかかりつけに受診されておられる。	協力医療機関の往診が月2回あり、ユニットごとに診療している。医療機関との連携により24時間オンコール体制がある。訪問看護師が毎週巡回し、健康管理や足の爪切りなど専門的なケアを行っている。歯科医の往診も毎週あり、診療や口腔ケアを行っている。その他の診療科目の受診は家族対応で、診療情報は家族から聞き取って職員も共有している。認知症の対応については専門医に相談している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居者の状態の変化に不安のある場合は、訪問看護に相談し、指示をいただいたり、必要な時は受診をする。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は、状態の把握と、ご本人とのなじみの関係を継続するため、お見舞いに伺う。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居の時に、指針の説明を通し、お話をし同意をいただいている。	医療連携体制加算の要件を満たす「重度化した場合における対応に係る指針」の内容を契約時に提示して説明し、同意書を受領している。重度化した場合は、本人・家族の意向に沿い対応を協議する方針である。これまでに看取りの実施例は無いが、入院中の利用者が2名いる。看取りについての職員研修等は行っていない。	入居者の高齢化が進んでいますので、事業所の力量に応じた研修体制の充実を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作り、記録ファイルにはさみ、いつでも読めるよう対応している。	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域包括センター主催の地域ケア会議に参加させて頂き、地域の多方面の方とお話をする機会があり、今後もそのような機会にホームを知って頂くとともに、災害避難訓練に参加し、な意味の関係を築く。	防災避難訓練を年2回（消防署立会1回、自主訓練1回）行っている。夜間想定訓練、火災発生対策訓練を行っている。事業所の避難訓練には、地域住民の参加を要請中である。自治会の訓練には職員が参加している。災害備蓄（非常用飲料水、食料、防災備品）は、建物外の倉庫に法人の備蓄リストに沿って3日分保有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は、お一人おひとりのお家と 考え、居室に入る時はノックを したり、居室外におられる時は許可 をいただき入室する 敬語を使うなど基本的なことは、 スタッフ会で時々確認している。	職員の雇用契約書に個人情報保護について記載 があり、入職時に署名捺印している。新人研修 で接遇などを学んでいる。個人情報保護の観点 から書類の原本管理には特に注意し、利用者の 支援経過記録をフロアで記入した際は、速やか に事務室に返却し、施錠して保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表 したり、自己決定できるように働きかけ ている	わかりやすい言葉掛けをするよう にしている。又、何かを選ぶ時 は、選択肢を少なくして、選びや すい工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	一日のスケジュールについては、 食事とお茶の時間以外は決めてお らず、天気・その日の状態に応じ て、散歩・レクなどを楽しん でいただく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれが できるように支援している	定期的に理美容に来ていただき、 ご希望により、頭髪のカットを受 けていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	食事の形態を、常食・一口きざ み・極刻みなど、召し上がりやす い状態で提供している。もやしの 芽取り・テーブル拭き・食器片付 けなど、出来る事をお手伝いいた だいている。	配食業者から献立と食材を調達し、職員が利用 者ごとに食事形態を変えて調理している。本人 の苦手なものには加工食や代替の食品を提供し ている。利用者は洗った食器を拭いたり、テー ブルを拭いたりして手伝っている。当番を決め て検食を実施している。実施記録をつけて調理 の参考にしている。敬老の日や文化の日など国 民の祝日には行事食を提供している。誕生日に はおやつにケーキを出している。家族会に合わ せ芋煮会を企画し、家庭菜園で収穫したものを 食べてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材配送を利用し、カロリー計算された食事を提供している。主食・副食共に、その方の召し上がりやすい形態と量を考え、提供している。水分量は記録し、必要量を摂っていただくよう対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、口腔ケアをしていただくよう、促し・介助で対応している。特にお休み前は、義歯をはずし、口の中をきれいにしてから休んでいただくよう対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に応じた介助を行い、記録に残している。	排泄は自立の人が2名で、他の人は個別の排泄パターンをもとに声掛けし、トイレに誘導し自立支援が行われている。自立支援の効果で改善した人もいる。トイレはユニットごとに3カ所ある。手すり、肘掛、手洗い、ペーパータオルが設置されている。内1カ所は車いす介助ができる広さがあり、浴室に隣接している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録により、水分量・食分量などを参考にして、水分（牛乳を含め）を摂っていただいたり、処方された整腸剤の調節を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	おひとりずつ、スタッフの介助により、入浴していただく。入浴を拒否されたときは、時間をあけて再度声を掛けて、入浴していただくよう対応している。	1日おきに入浴している。希望により時間や回数を変えたり、体調によりシャワー浴などに変更することもある。菖蒲湯や柚子湯で季節感を楽しんでもらっている。入浴しながらいない人には、時間をずらしたり気分転換をした後に誘導する。同性介助の要望があれば対応する。脱衣場にエアコンを設置してヒートショック対策をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きなテレビ番組がある時は、ご覧になってから休まれたり、ベッドで休む習慣の無い方は、マットを下に敷いて、休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、スタッフ全員が把握し、間違いの無いようチェックを行い、薬に変更のある場合は、受診報告・申し送り等で周知する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の散歩・季節の行事・カレンダー作りなど、出来る事に参加していただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩は、天気をみながら、歩行出来ない方には車椅子を使用し、楽しんでいただいている。遠方へのご希望の場合は、ご家族に相談させていただいている。	天気が良ければ毎日散歩している。車椅子を利用している人は広い敷地内を散歩できる。大きな屋根つき玄関ポーチに椅子を並べ、外気浴で気分転換ができる。行事計画に沿って花見、大風揚げ見物、ひまわり園見学、相模大野への買い物など、遠方への外出を楽しんでいる。車両は事業所に2台、法人がバス2台を保有している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい品や必要な品については、ご家族に相談し、買い物にご一緒したり、スタッフが用意するなどしている。お金は、お持ちいただいていないため、立て替えて次月お支払いただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、暑中見舞いや年賀状を用意し、書いた後、ポストまでご一緒することもある。電話も希望のある時は、掛けていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関とデイルームには、花を飾り、楽しんでいただいている。室温は、常に気を配り、室温計を見ながら調節をする。	居間・食堂とキッチンが建物の中央にあり、職員が見守りやすいように配置され、陽当たりが良く清潔である。季節の行事や外出の写真を壁面に掲示し、生活の様子を紹介している。利用者は居間で合唱し、レクレーションを楽しみくつろいでいる。50坪ほどの家庭菜園の収穫物は、芋煮会などの食卓を賑わしている。乾燥する時期には除菌装置付きの加湿器を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は決まっているが、それ以外の時間は、ソファ・ベンチ・居室など、お好きな場所でくつろいでいただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは、備えた物を使用しているが、家具については、居室に入る範囲であれば、自由にお持ちいただいている。カーテンは、望遠加工した品をお願いしている。	居室には空調設備、換気扇、照明器具、クローゼットが備え付けられている。防災カーテンとベッドは備え付けのものを使用しても持ち込んでも良い。利用者は好みのもの、馴染みのものを持ち込んで居心地よく過ごせる部屋作りをしている。起きあがりセンサーを設置している。夜間はポータブルトイレを使う人もいる。掃除は職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアは、バリアフリーとなっており、エレベータを設置。フロア・浴室・トイレには手すりを設置し、安全に移動していただく助けとなっている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 花物語 さま

作成日 平成27年 8月 5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33 12	入居者の定着化ができていない状況へのケアの不足	職員個々の力量に合わせたケアを行う	年間目標に研修の参加を掲げ社内・社外の研修体制を充実させる。	1年(弱)
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。